

農作物病害虫発生現況情報（5月） りんご編

1 モニリア病

(1) 5月の巡回調査では、発生が確認されなかった（図1）。

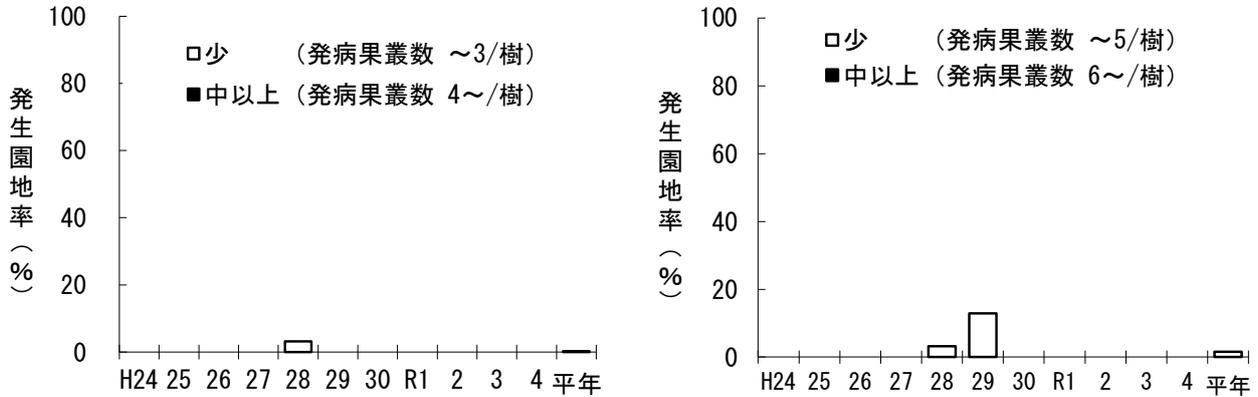


図1 モニリア病の発生園地率の年次推移（左図：5月前半、右図：5月後半）

2 腐らん病

(1) 5月後半の巡回調査での発生園地率は41.9%（平年41.6%）であり、平年並だった（図2）。

(2) 地域別では、県南部での発生程度中以上の園地率が18.2%（平年2.7%）であり、平年より高かった（図3）。

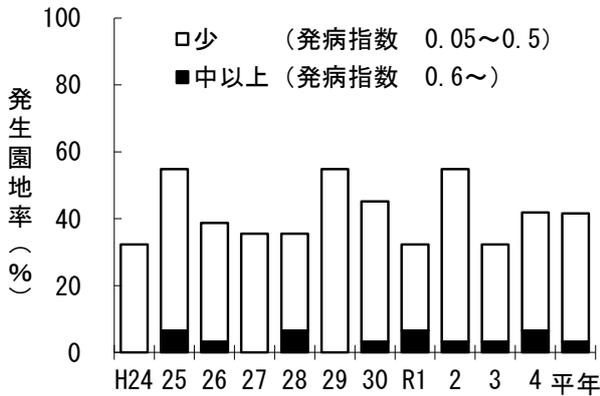


図2 腐らん病の発生園地率の年次推移（5月後半）

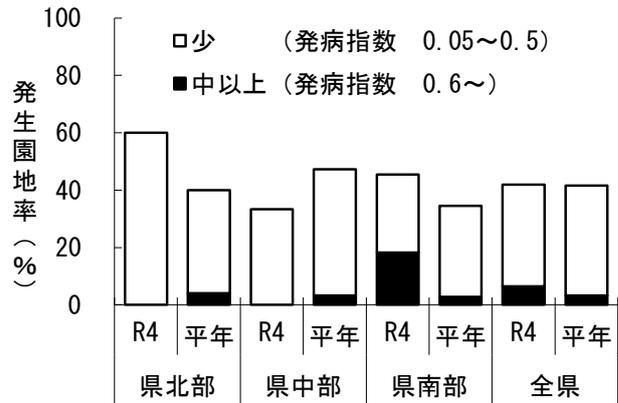


図3 腐らん病の地域別発生園地率（5月後半）

3 斑点落葉病

(1) 基準圃場（北上市・スターキングデリシャス）では、5月23日現在、発生が確認されていない（平年初発：6月第2半旬）。

(2) 5月後半の巡回調査では、ふじ、王林ともに発生が確認されなかった（図4）。

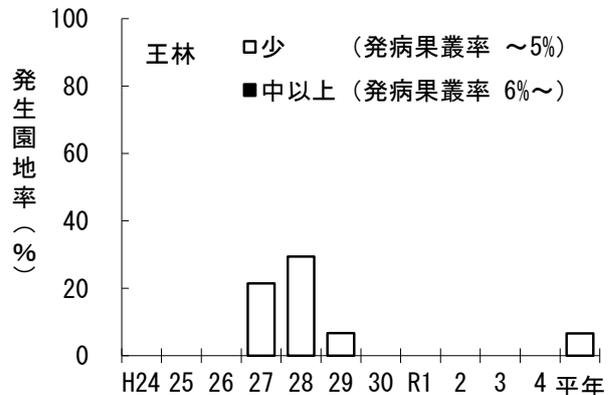


図4 斑点落葉病の発生園地率の年次推移（5月後半、果叢葉、王林）

4 黒星病

(1) 5月後半の巡回調査での発生園地率は3.2%（平年1.0%）で、前年多発した一部園地で確認された（図5）。

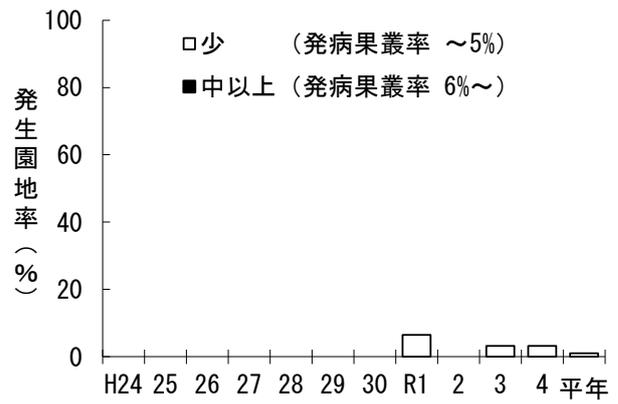


図5 黒星病の発生園地率の年次推移
（5月後半、果叢葉）

5 うどんこ病

(1) 5月後半の巡回調査での発生園地率は3.2%（平年1.6%）であり、平年並だった（図6）。

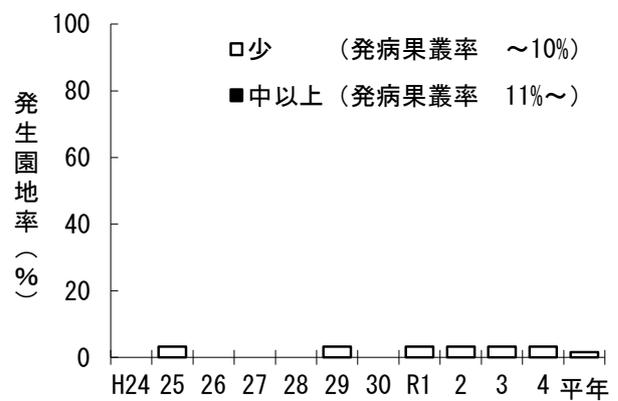


図6 うどんこ病の発生園地率の年次推移
（5月後半、果叢葉）

6 リンゴハダニ

(1) 巡回調査での発生園地率は、5月前半は9.7% (平年10.3%)、5月後半は19.4% (平年22.3%) で、ともに平年並だった。発生程度中以上の園地は、5月前半、5月後半ともに見られなかった (図7、8)。

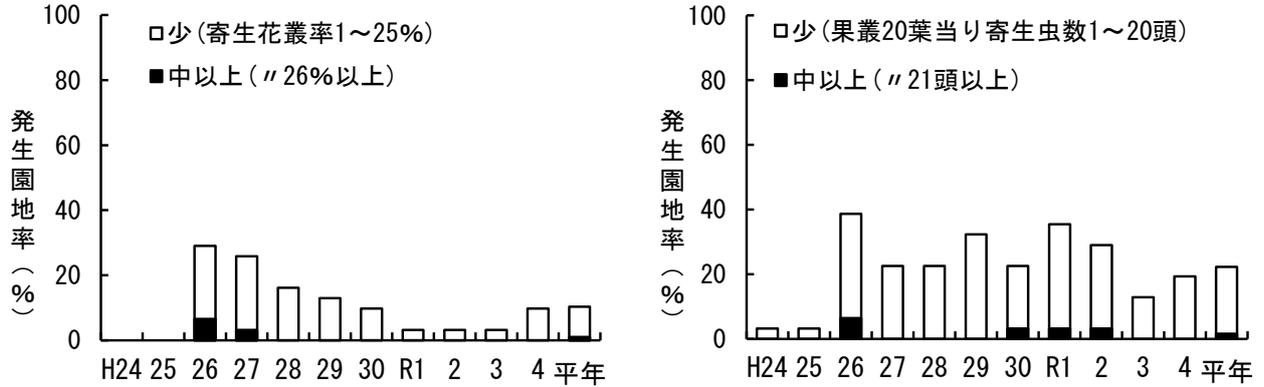


図7 リンゴハダニの発生園地率の年次推移 (左：5月前半、右：5月後半)

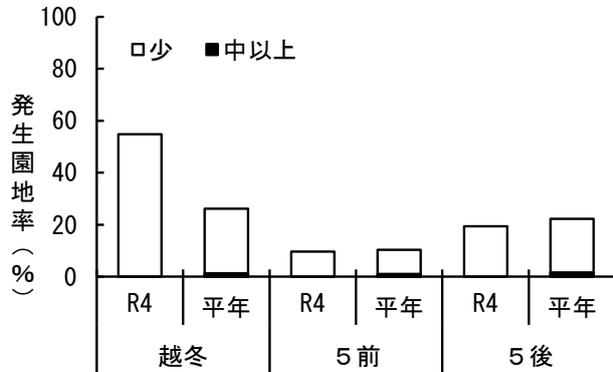


図8 リンゴハダニの時期別発生状況の推移

7 ナミハダニ

(1) 巡回調査での発生園地率は、5月前半は38.7% (平年25.5%) で平年よりやや高かったが、5月後半は16.1% (平年18.4%) で平年並だった。発生程度中以上の園地は、5月前半は見られず、5月後半は3.2% (平年9.4%) で平年より低かった (図9、10)。

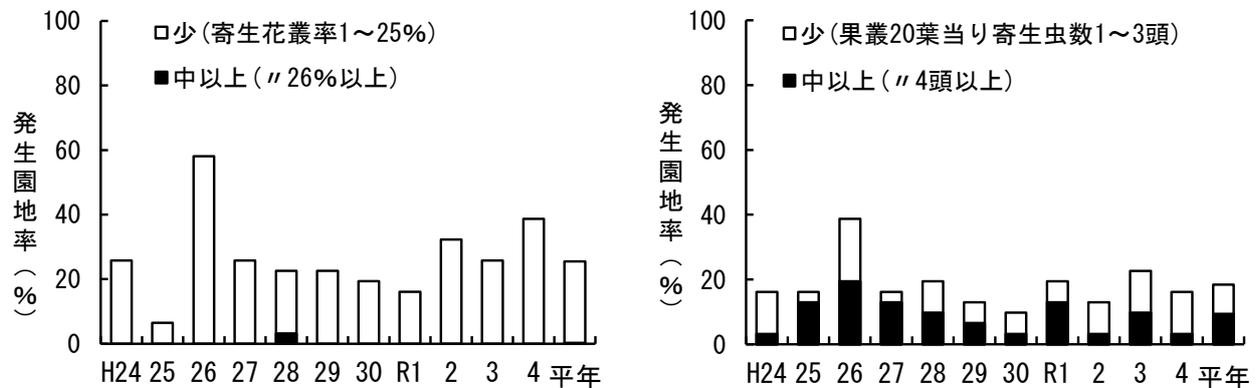


図9 ナミハダニの発生園地率の年次推移 (左：5月前半、右：5月後半)

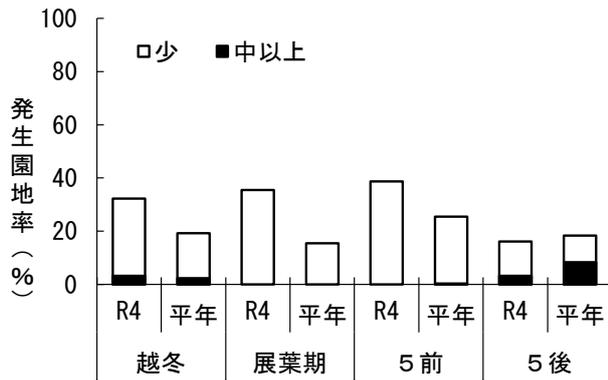


図10 ナミハダニの時期別発生状況の推移

8 ハマキムシ類

(1) 巡回調査での発生園地率は、5月前半は3.2% (平年16.5%)、5月後半は3.2% (平年14.5%) で、ともに平年より低かった (図11)。

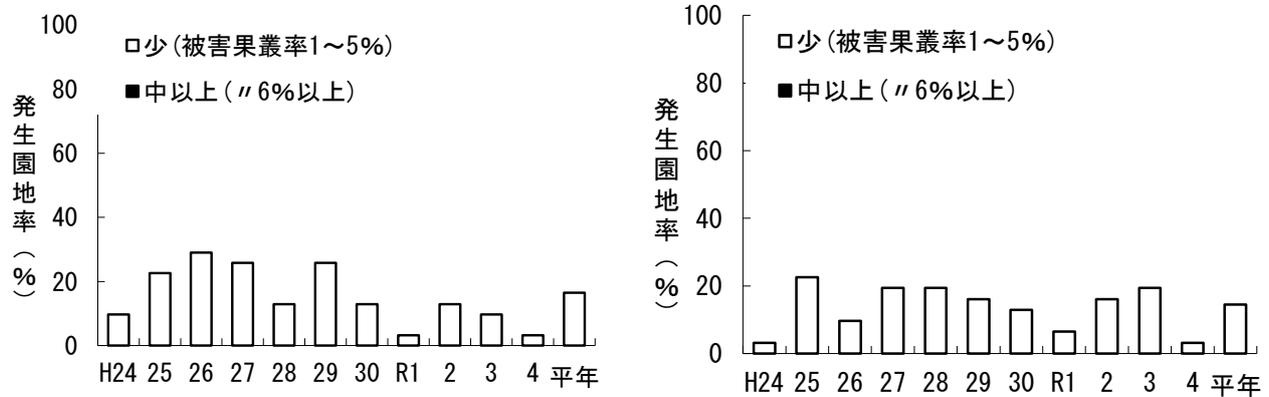


図11 ハマキムシ類の発生園地率の年次推移 (左: 5月前半、右: 5月後半)

9 ギンモンハモグリガ

(1) 5月後半の巡回調査での第1世代幼虫の発生園地率は0% (平年6.5%) であった (図12)。

10 アブラムシ類

(1) 5月前半の巡回調査での発生園地率は58.1% (平年46.6%) で、平年よりやや高かった (図13)。

(2) 発生が見られた種は、リンゴクビレアブラムシであった。

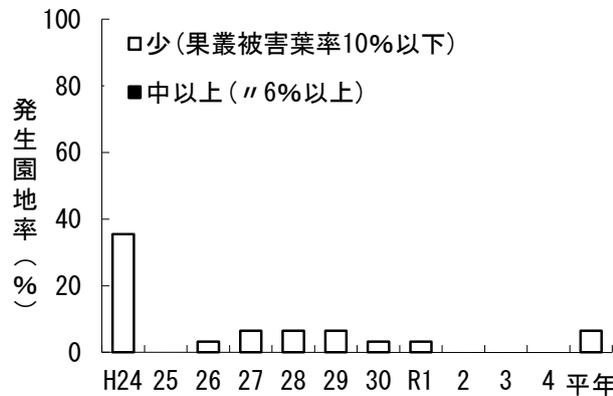


図12 ギンモンハモグリガの発生園地率の年次推移 (5月後半)

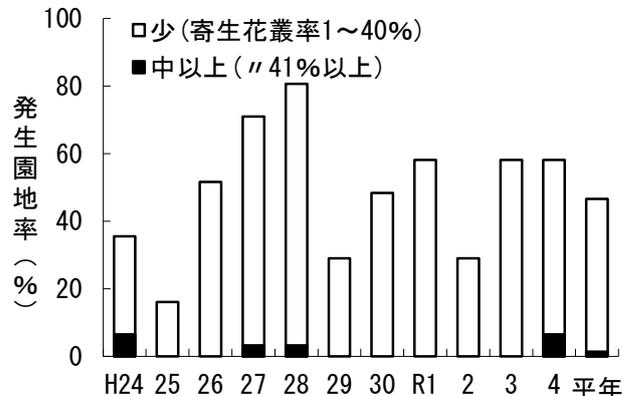


図13 アブラムシ類の発生園地率の年次推移 (5月前半)

11 ヤナギリチョッキリ

(1) 5月後半の巡回調査での発生園地率は25.8%（平年17.5%）で、平年並であった（図14）。

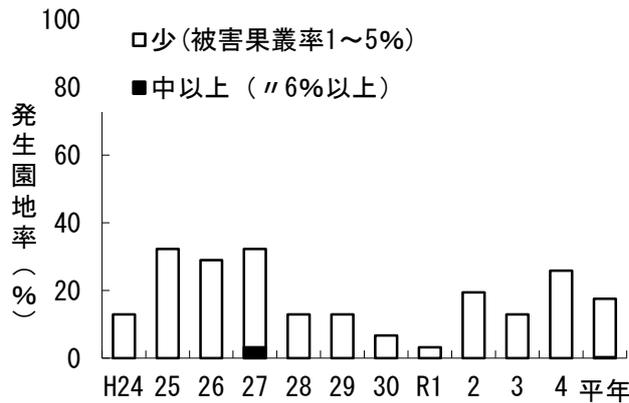


図14 ヤナギリチョッキリの発生園地率の年次推移（5月後半）

12 モモシンクイガ

(1) 基準圃場（北上市成田：無防除）におけるフェロモントラップには、平年よりやや早く5月第4半旬に誘殺が確認された（図省略）。

13 キンモンホソガ

(1) 基準圃場（北上市成田：無防除）におけるフェロモントラップの越冬世代の誘殺は、平年より1半旬早い4月第5半旬に羽化盛期が認められた（図15、表1）。

(2) 前年に第4世代の発生が多かった盛岡地域の現地園地（盛岡市東安庭）におけるフェロモントラップの越冬世代の誘殺は、平年より多かった（図16）。

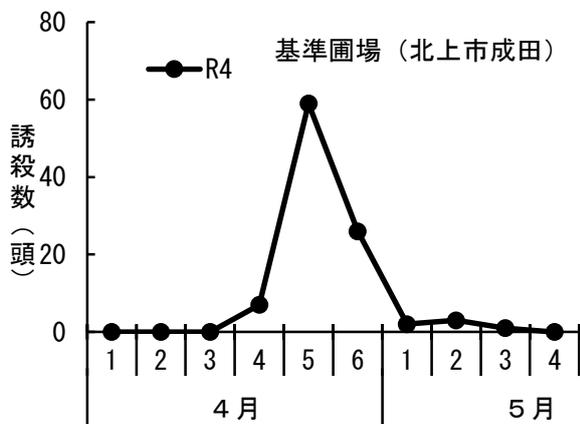


図15 基準圃場におけるキンモンホソガの誘殺状況

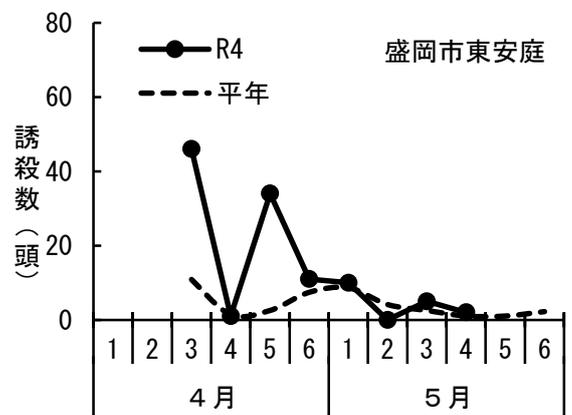


図16 現地園地におけるキンモンホソガの誘殺状況

表1 基準圃場における平年の羽化盛期

越冬世代	第1世代	第2世代	第3世代
4月第6半旬	6月第3半旬	7月第5半旬	9月第1半旬

※平年値はH24～R3の月半旬の平均より算出

14 果樹カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田：無防除）及び現地2園地（盛岡市川目、北上市更木）の集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、半旬あたり0～5頭程度であった（図17）。
- (2) 予察灯におけるクサギカメムシの誘殺は、盛岡市川目、北上市更木ともに、それぞれ5月第3半旬、5月第4半旬までは確認されていない（図18）。

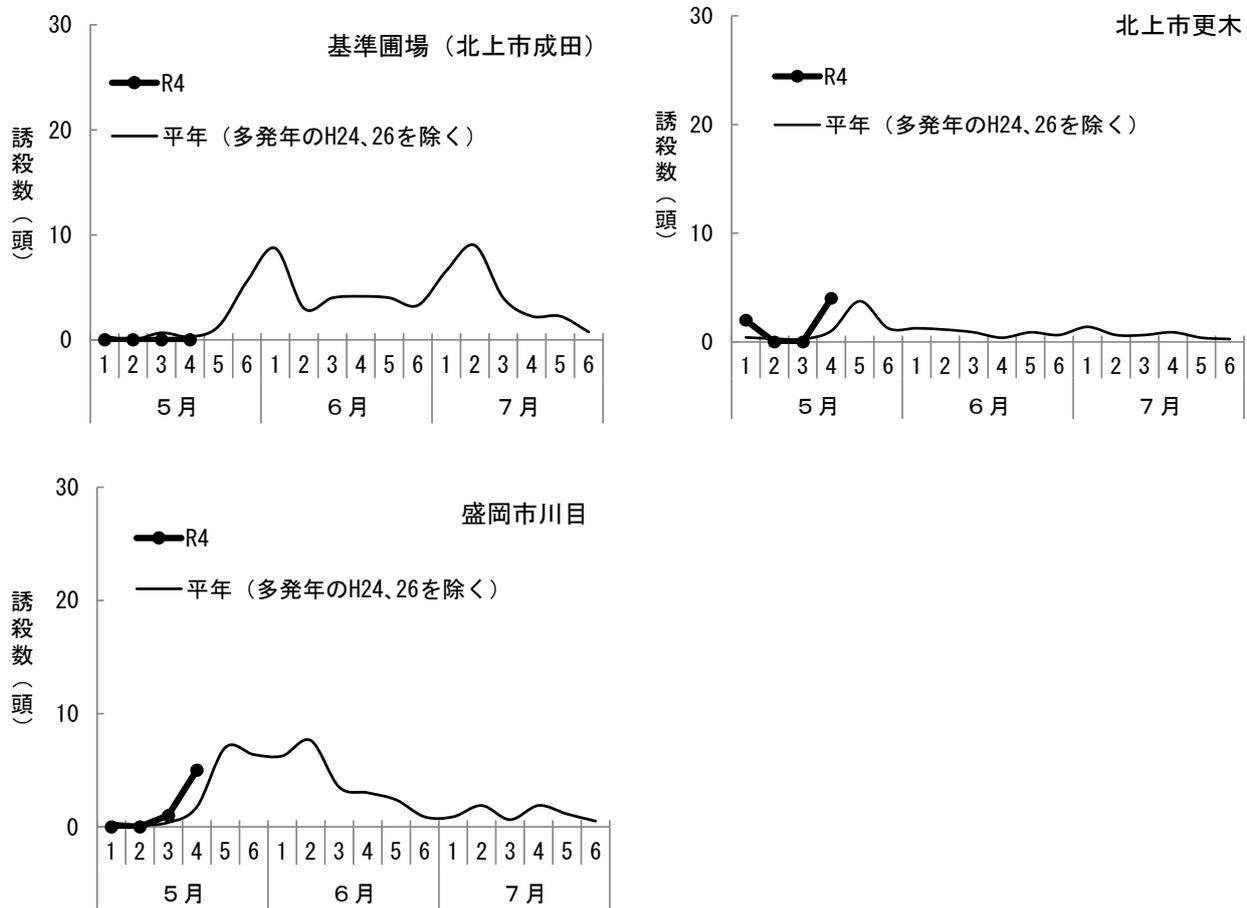


図17 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況

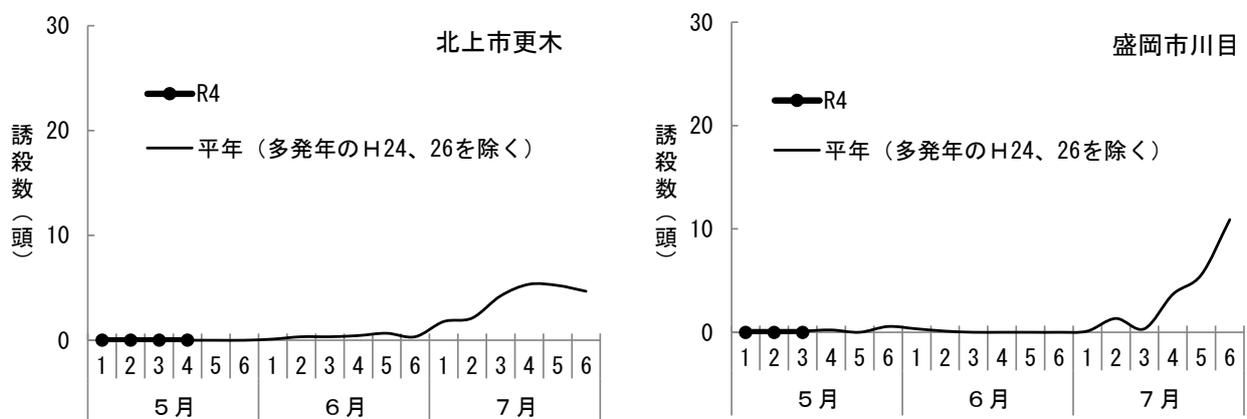


図18 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況